

令和元年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立西与賀小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成31年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、英語)

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

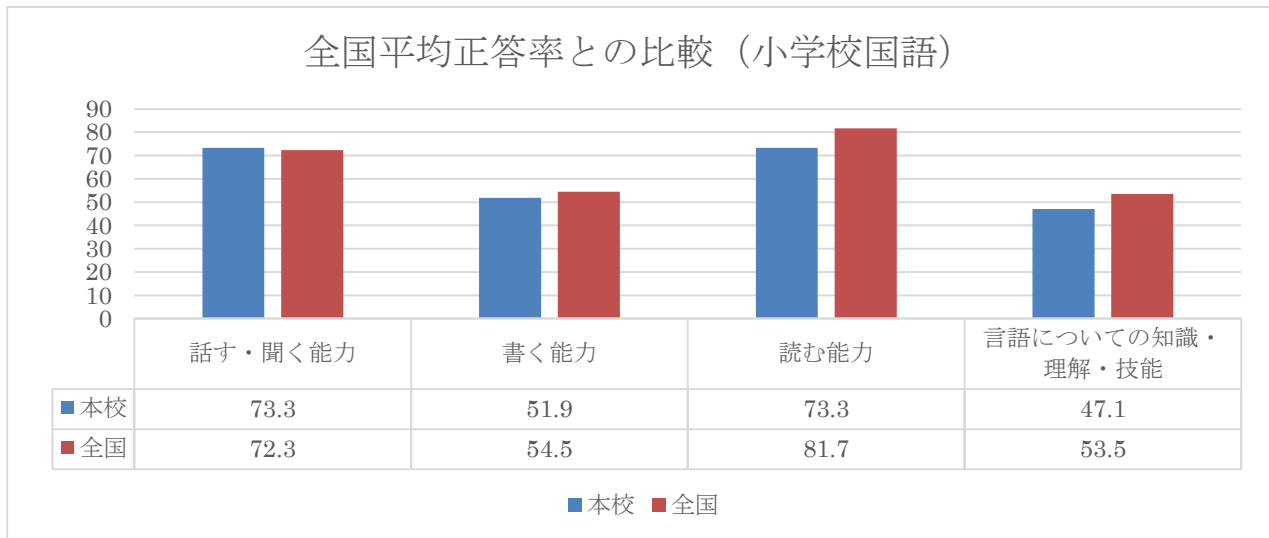
児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語・英語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

「話すこと・聞くこと」の領域が、佐賀県・全国平均よりやや上回っています。一方で、「読むこと」「知識・理解・技能(言語事項)」の領域は、佐賀県・全国平均を下回っています。解答率も高く、課題解決への意欲が見られます。

(2) 成果と課題

「話すこと・聞くこと」の領域では、話し手の意図を捉えながら聞き、聞き取った情報を基に質問したり、自分の考えをまとめたりする問題は、正答率が高かった。しかし、目的に応じて質問を工夫する問題に課題が見られた。「書くこと」の領域では、相手に分かりやすく伝える目的や意図に応じて、自分の考えを明確にした報告文を書く問題の正答率が低かった。複数の条件を読み取り、それらの条件に沿って書き換える力が求められる。「読むこと」の領域では、説明文全体を概観して、その内容を効果的に読む問題は、正答率が高かった。目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えにつなげる問題に課題が見られた。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、文脈を基に、適切な漢字に書き直す問題の正答率が低かった。スキルタイムや家庭学習で漢字の読み書きができていても意味まで捉えていないことが要因の一つであると考えられる。ことわざや接続詞等の意味をしっかり捉えて、自分の表現に用いる経験を積ませる必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

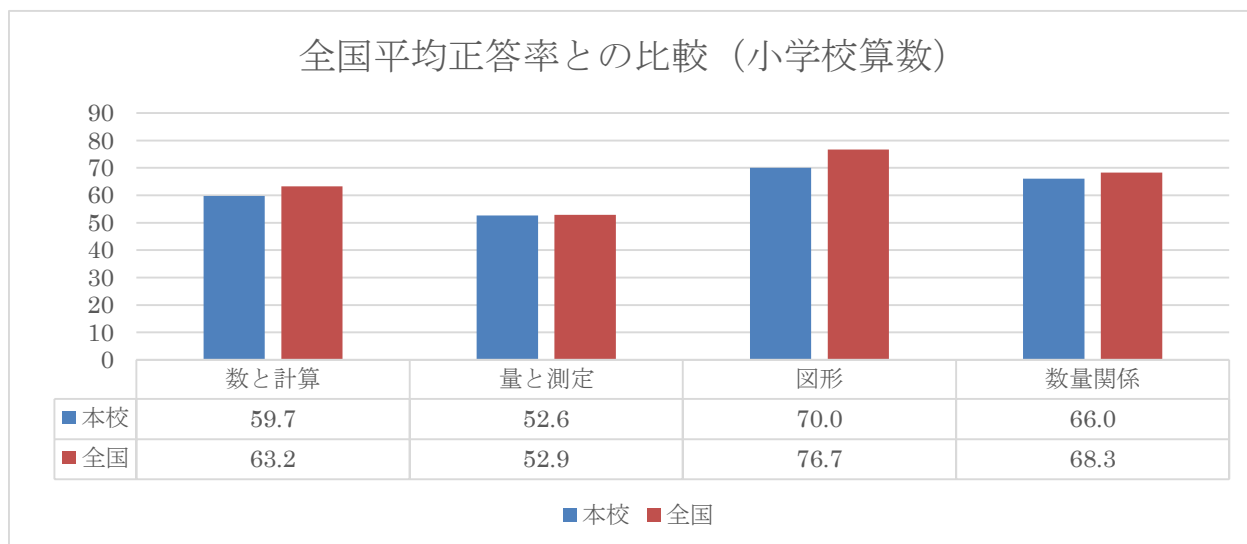
【学校では】

- 学校・地域行事等に、自分の考えを表現したり意見を聞き合ったりする場を設定し、コミュニケーション力の向上、習得をめざします。
- 報告、感想、意見等、目的に応じて何をどのように相手に伝えればいいのか、課題意識をもって話したり書いたりする活動に取り組みせ、自信をもって自分の考えを表現する力を伸ばします。
- 朝の読書、あしこの読み聞かせの時間を充実させます。読書の記録や実態に応じて、読書のジャンルを広げたり読書意欲を高めたりする手立てを工夫します。

【ご家庭では】

- 諸感を使う音読は、集中力を高めます。教科書に限らず、新聞、図鑑、手紙等、様々な形式の文書の音読にチャレンジすれば、豊かな表現力の醸成にもつながります。
- 体験したこと、考えたこと、自分の願い等、1日の出来事を語り合う時間をもってあげてください。家庭での会話は、コミュニケーション力を高めてくれます。
- 親子読書では、同じテーマで感想交流してください。家族による読み聞かせは、高学年の子どもたちにとっても読書への関心が高まります。

2 算 数



(1) 結 果

「図形」「数量関係」は、佐賀県・全国平均を下回っています。根拠や解法を基に考えを記述する問題に課題が見られます。今後、筋道を立て、適切に記述する力を身に付けさせる必要がある。

(2) 成果と課題

基礎的な計算技能は、スキルタイムの時間等を通して身に付いている。一方で、場面の状況や得られた結果から答えの求め方を推論する問題に課題が見られた。計算のきまりを正しく解釈し、条件に沿って適応させる力が求められる。図形の面積を求めたり、グラフの特徴を捉えたりする問題は、正答率が高かった。一方で、場面の状況から単位量当たりを求め、結果から導き出される求め方や答えを記述する問題に課題が見られた。「図形」に関する領域では、台形の特徴や性質は、正しく理解していた。しかし、合同の性質から、図形の構成要素を見出す問題に課題が見られた。数量の変化に着目して棒グラフを読み取ることができ、情報を正しく理解する力があることが考えられる。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- タブレット学習、ICT 教育等で培ってきた基礎学力のさらなる定着をめざし、朝のスキルタイムの時間に、計算力や思考力を向上させるプリント学習に取り組み、自ら学びに向かう力を育みます。
- 授業では、友だちの意見を繰り返し言ったり、言い換えたり、付け加えたり、まとめたりする言語活動（「学びタイム」）を多く取り入れ、目的や時間、条件をはっきりさせたグループ学習やペア学習に取り組み、主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせます。
- 中・高学年では、TT（ティームティーチング）の形態を取り入れ、指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、きめ細やかな指導に努めます。

【ご家庭では】

- 学校で何を学習し、何に興味をもち、どこまで理解できているのか、問題を解くのにどれくらい時間がかかっているのか、お子様の成長を見守るために、日頃からドリルやプリント等の宿題・テストに目を通してください。気づいたことには励ましや称賛の言葉をかけてあげてください。
- 算数好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて便利だな。おもしろいな。」等、身近な生活体験と結び付ける学習が効果的です。学んだことが、買い物の計算、時間の使い方、数値の計測等、実際の生活に役立っていることを実感させることが学習意欲の向上につながります。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか	93.3	86.7
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	42.2	38.9
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	60.0	58.7
学校のきまりを守っていますか	53.3	46.7
自分には、よいところがあると思いますか	26.7	38.8
将来の夢や目標を持っていますか	55.6	65.9
今住んでいる地域の行事に参加していますか	40.0	37.2

朝食の摂取は、概ねできている。今後は、「生活パワーアップ週間」の取組を通して、就寝や起床時刻など、基本的な生活習慣の定着と向上を目指す必要がある。また、自分の良さを認めている児童の割合が、全国平均を大きく下回っていて、自尊心を高める取組が求められる。将来の夢や目標を持っている児童の割合も、全国平均を下回っていて、道徳やキャリア教育等を充実させ、一人ひとりに自信を高める指導が必要である。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校 %	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか (どちらかと言えばしている場合を含む)	82.3	71.5
学校の授業時間以外に、普段(月～金)1日当たりどれぐらいの時間、勉強をしますか。「2時間以上」	17.8	29.3
「30分以上、2時間より少ない」	77.8	60.9
「30分より少ない」	4.4	10.1
学校の授業時間以外に、普段(月～金)1日当たりどれぐらいの時間、読書をしますか。(教科書、参考書、漫画、雑誌を除く)「30分以上」	26.6	39.8
「10分以上、30分より少ない」	55.6	41.5
「全く読まない」	17.8	18.7

家庭学習の時間において、平日2時間以上の児童の割合が、全国平均を下回っていた。自分で計画を立てて勉強をしている割合は、全国平均を上回っていて、学習への意欲は高い。「自学がんばる週間」等を活用しながら、家庭学習の質的・量的な充実を図るとともに、主体的に自学、読書などに取り組ませる必要がある。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 家庭学習では、決められた宿題(ドリル・プリント等)、自分でできる課題(自学)を区別し、時間や場所、分量など、個に応じた指導を行い、学習環境の充実、改善を図ります。
- 自学では、授業で学んだことや関心があることに取り組ませます。「自学がんばる週間」や「休日」には、体験したことや調べたことをまとめる学習課題にも取り組ませ、学習意欲の向上をめざします。
- 「生活パワーアップ週間」を利用して、計画的に学習する時間を増やします。予習や復習に積極的に取り組ませ、授業と家庭学習との連携を図ります。

【ご家庭では】

- 低学年の時は目が届くところで早い時間に家庭学習に取り組むように声をかけてください。家庭では、学習に臨むための環境を整えることが、本人の意欲や主体性の支えとなります。
- 結果よりもお子様の成長に目を向けてください。できたことをまず認め、自信をなくした時には励ます等、子どもの気持ちに寄り添った姿勢を示すことが大切です。